

福井県勝山市で建設中の

「勝山市新体育館建設工事」

で、日綜産業(本社・東京都中央区、社長・小野大氏)の先行床施工式フロア型システム吊り足場「クイックデッキ」が鉄骨トラスの塗装用足場として1千平方メートル採用されている。北陸3県における初の採

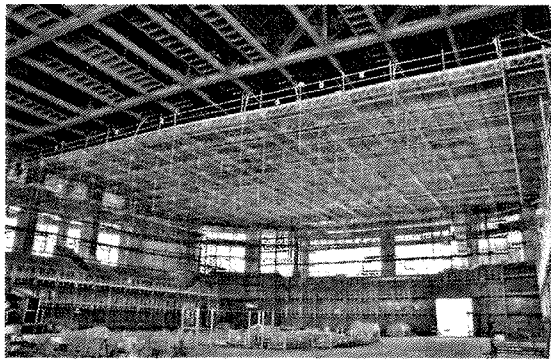
日綜産業

用事例で、アリーナ建築では北海道の函館アリーナ(700平方メートル)に続く全国2例目。北陸の代理店である北国リースを通して納入された。

採用されたのはアリーナ屋根大梁鉄骨トラス下の吊り足場で、東西方向約60メートルのうち約40メートルの部分。1階フロアから約14メートルの高所で約4

吊り足場「クイックデッキ」

北陸(福井)で初採用



勝山市新体育館で採用されたクイックデッキ

の梁せいをもち鉄骨トラスA部分で並行して進められるへの塗装作業となったため、ことから、現場作業の効率化作業員の安全性を確保することにも寄与している。ともに、高所部分と1階フロ

クイックデッキのこれまでの納入・稼働中の現場は70件で、計画・引き合い案件の累計では100件を超える。内訳は大型ショッピングモールや航空機組立工場の天井工事、精密機械工場の天井改修、新幹線高架の改修工事など多岐にわたる。特に、天井改修工事用の足場としては工場を稼働させながら工事ができるため、発注者の評価が高い。

今年5月には国土交通省の最新技術情報システム(NETIS)に登録して、今後も橋梁などの点検・補修など公共工事での採用が期待される。新体育館は3年後の福井国体のバドミントン競技の会場に選定されており、鉄骨鉄筋コンクリート造2階建てで、延べ床面積6612平方メートル、最高高さ18.9メートル。バドミントンのコート12面を確保できる。工事は2014年3月に始まり、完成が16年3月末の予定。施工業者は見谷組・大北久保建設・豊栄建設・椿坂電機・シマキ工業JV。使用された鋼材は鉄骨約1600トン。